

ビデオアートプログラム

A Window to the World: 世界に開かれた映像という窓

第33回: クワン・シャンチ

新しい映像表現に触れることができる無料プログラム

「A Window to the World: 世界に開かれた映像という窓」は、館内の無料スペースで、世界で活躍するアーティストたちによる映像作品を紹介するプログラムです。映像が映し出されるスクリーンを、距離的な隔たりを超えて世界で繰り広げられる試みと私たちとの回路を開く「窓」にたとえ、年間を通して先鋭的な表現を紹介しています。

第33回: クワン・シャンチ

●上映期間/ 2013年5月14日(火) ~ 7月14日(日)

●上映作品/

ONE MILLION (台湾元バージョン)、2012年 HDビデオ、カラー、サウンド、9分43秒

ONE MILLION (日本円バージョン)、HDビデオ、カラー、サウンド、1分8秒

ONE MILLION (香港ドルバージョン)、HDビデオ、カラー、サウンド、8分18秒

上映作品解説

100万円と聞いた時、たとえ現物を手にした経験がなくとも、多くの人が、1センチほどの厚みの束のイメージを思い浮かべるのではないだろうか。《ONE MILLION》はそのタイトル通り、紙幣を100万分数える映像である。順番に流れる3つの映像には、それぞれ1万円札(日本円)、1千ドル札(香港ドル)、1千元札(台湾元)が登場する。100枚、または1000枚という膨大な枚数の紙幣を、乱れることなく数える指の動きに、銀行の職員を写した映像と考える人もいるかもしれない。しかし、映像を見ている内におかしな事に気づくだろう。数えている人物の手元には、あのお札の厚みが存在していないのだ。

よく見ればこの映像は、同じ指の動きをリピートしてつなげることで、沢山の紙幣を数えているように見せかけているだけだということがわかる。つなぎ目は巧妙で、あたかも彼は100万分の紙幣を手にしてしているかのようだ。しかし、実際には、ほんの数枚の紙幣しか使われていない。

現代において、経済活動の大部分は実際の貨幣ではなく、数字のやりとりによって動いている。実態を伴わないマネーゲームに国や企業は翻弄され、個人においては、クレジットカードや電子マネー等の普及によって、現金を使うことなく便利に消費活動を行える。一方で、気づかぬ内に巨額の債務を負ってしまう人もいる。

経済活動に留まらず、インターネットや各種メディアの発展により、あらゆる情報がデータとして飛び交う現代では、「あるように見えること」と「実物としてあること」の境目がどんどん曖昧になっている。しかしそれは同時に、一度システムが壊れれば、すべて「ないこと」となる危険性もはらんでいる。利便性や合理性を追求する裏で、不安定さを抱える社会の現状を《ONE MILLION》はシンプルな映像で私たちに問いかけている。(山下樹里)

クワン・シャンチ

1980年、香港に生まれる。2003年香港中文大学卒業。香港在住。大学在学中の2002年に、香港内の美術館など10箇所の会場を巡回する個展を開催し、話題となる。映像、立体、インスタレーションなど、様々な表現手法を用いて作品を発表している。主な個展に2012年「Collected Works」ユカ・ツルノ(東京)、2011年Art Taipei 2011「New Media Section」台北世界貿易センター(台北、台湾)、2009年「No matter. Try again. Fail again.」ギャラリー・エグジット(香港)など。主なグループ展に2012年「Mobile M+: Yau Ma Tei」ヤウマテイ(香港)、2010年第5回イスラエル国際映像ビエンナーレ「Videozone V」テル・アビブ現代美術センター(イスラエル)などがある。



クワン・シャンチ Kwan Sheung Chi  
2013.5.14(火) ~ 7.14(日)

33  
A Window to the World  
世界に開かれた映像という窓

広島市現代美術館  
Hiroshima City Museum of Contemporary Art

クワン・シャンチ 展覧  
1980 香港生まれ、香港在住  
2003 香港中文大学卒業  
2012 「100 Things, A Million Interpretations」イェウ・マ・テイ(香港)  
2011 「Collected Works」ユカ・ツルノ(東京)  
2011 Art Taipei 2011 (New Media Section) 台北世界貿易センター(台北、台湾)  
2009 「No matter. Try again. Fail again.」ギャラリー・エグジット(香港)  
2009 「Mobile M+: Yau Ma Tei」ヤウマテイ(香港)  
2012 「Blowing on the Saffron」イェウ・マ・テイ(香港、北京)  
2011 「Catching Fire」台北(台湾)  
2011 「Catching Fire」台北(台湾)  
2010 「Catching Fire」台北(台湾)  
2010 「Catching Fire」台北(台湾)  
2009 「One Degree of Separation」イェウ・マ・テイ(香港、北京)  
2007 「Catching Fire」台北(台湾)  
2007 「Catching Fire」台北(台湾)  
2007 「Catching Fire」台北(台湾)  
2005 「Hong Kong Art Biennial Exhibition 2005」香港(香港)



会場風景 (参考)

過去の「A Window to the World」

第32回：グレタ・アルファロ



2013年3月19日(火)  
～5月12日(日)  
イン・ブレイズ・オブ・ザ・ピース  
スト (2009年)

第31回：コレクティブ\_ファクト



2013年1月26日(土)  
～3月17日(日)  
事の成り行き (2012年)

■第30回：ジョウ・タオ

2012年11月20日(火)～2013年1月14日(月・祝)  
ニューヨーク時間 (2009年)、サウス・ストーン (南石) (2010-11年)

■第29回：ハーリド・ハーフィズ

2012年9月19日(水)～11月18日(日)  
2011年2月11日：ビデオ・ダイアリーズ (2011年)

■第28回：スッティラット・スババリヤ

2012年7月18日(水)～9月17日(月)  
シューティング・スターズ (2010年)

■第27回：シャハール・マークス

2012年5月15日(火)～7月16日(月)  
1,2,3, Herring (2011年)

■第26回：スミルハン・ラディック

2012年2月7日(火)～4月22日(日)  
オレンジ・ノイズ (2009年)

■第25回：ラリッサ・サンズール

2011年11月29日(火)～2012年2月5日(日)  
スペース・エクソダス (出宇宙記) (2009年)

■第24回：山本篤

2011年9月21日(水)～11月27日(日)  
2 dogs (2010年)

■第23回：田村友一郎

2011年7月12日(火)～9月19日(月)  
NIGHTLESS (2011年)

■第22回：シンシア・マルセリ

2011年4月26日(火)～7月10日(日)  
クルザーダ (2010年)

■第21回：佐藤義尚

2011年3月8日(土)～4月24日(日)  
papers digital version (1991/2003年)、desktop (2005年)、  
patterns (2009年)

■第20回：スキ・チャン

2011年1月18日(土)～3月6日(日)  
スリープ・ウォーク・スリープ・トーク (2009年)

■第19回：マイケル・ベル＝スミス

2010年11月23日(火)～2011年1月16日(日)  
セルフ・ポートレート・ニューヨークシティ (2006年)、オン・ザ・グリッド  
(2007年)、ビルディング・アクロス・フロム・グリッター・バンド (2008  
年)

■第18回：チョイ・カ・ファイ

2010年10月5日(火)～11月21日(日)  
矩形の夢、シングルチャンネル・バージョン (2010年)

■第17回：ジアッド・アンタール

2010年8月24日(火)～10月3日(日)  
トルコ行進曲 (2006年)、WA (2004年)、タンブーロ (2004年)

■第16回：崔廣宇 (ツイ・クワンユー)

2010年7月6日(火)～8月22日(日)  
ショートカット・トゥ・ザ・システマティック・ライフ：シティー・スピ  
リッツ (2005年)、不可視の都市：タイバリ・ヨーク (2008年)

■第15回：辻直之

2010年5月25日(火)～6月20日(日)  
3つの雲 (2005年)

■第14回：トロビヨロン・ロッドランド

2010年3月13日(土)～5月9日(日)  
132BPM (2005年)

■第13回：ニーナ・フィッシャー、マロアン・エル・サニ

2010年1月16日(土)～2月28日(日)  
暗黒郷を綴る (2008/09年)

■第12回：ヤエル・バルタナ

2009年11月17日(火)～2010年1月15日(金)  
震える時 (2001年)、宣言 (2006年)

■第11回：オルガ・チェルヌィシヨワ

2009年9月15日(火)～11月15日(日)  
列車 (2003年)、楽しい夢 (2005年)

■第10回：トロマラマ

2009年7月18日(土)～9月13日(日)  
セリガラ・ミリシャ (2006年)

■第9回：ジョルディ・コロメール

2009年5月23日(土)～7月17日(金)  
アナーキテクトン (バルセロナ、ブカレスト、ブラジリア、大阪) (2002-04年)

■第8回：ホ・ツ・ニエン

2009年3月14日(土)～5月10日(日)  
ボヘミアン・ラブソディ・プロジェクト (2006年)

■第7回：ブルースープ・グループ

2009年3月3日(火)～4月19日(日)  
出口 (2005年)

■第6回：ミッチェル・ローズ + BodyVox

2009年1月27日(火)～3月1日(日)  
現代の白昼夢：ディア・ジョン (2001年)、現代の白昼夢：中空の鳥々、  
(2001年)

■第5回：榊原澄人

2008年12月16日(火)～2009年1月25日(日)  
浮楼 (2005年)

■第4回：シガリット・ランダウ

2008年11月1日(土)～12月14日(日)  
Phoenician Sand Dance (2004年)

■第3回：田口行弘

2008年9月17日(水)～10月31日(金)  
Moment-performative Installation- / Moment-performative  
installation- (2007年)、Moment-performatives spazieren- /  
Momena-performarive wandering- (2008年)、Ordnung / Order  
(2008年)

■第2回：ロイック・ストラニー

2008年8月5日(火)～9月15日(月・祝)  
現土地調査 (2005年)、神様の味 (2008年)

■第1回：シンイル・キム

2008年6月28日(土)～8月3日(日)  
ドア (2003年)、球体 (2003年)、アクション (2004年)